

ワークサンプル幕張版（MWS）新規3課題の 活用ハンドブックの作成について（経過報告）

- 藤原 桂（障害者職業総合センター 主任研究員）
 渋谷 友紀（障害者職業総合センター）

ワークサンプル幕張版(MWS)

- 障害者職業総合センター研究部門では、ワークサンプル幕張版(以下「MWS」という。)を開発し、2007年度より市販開始。アセスメント、作業遂行力の訓練などのために、様々な就労支援機関等で広く活用。
- 2019年度にMWSの新規課題(給与計算、文書校正、社内郵便物仕分)(以下「MWS新規課題」という。)を開発。2020年度末より市販開始。

MWS新規課題

- MWS新規課題は、サブブックや参照資料の読み込みが必要になるなど、MWSの既存課題（以下「MWS既存課題」という。）よりも難易度が高くなっている。
- 作業遂行能力が高く、MWS既存課題では職場適応上の課題点を把握できなかった対象者への職業評価や訓練等に効果的であるとされている。

研究の視点

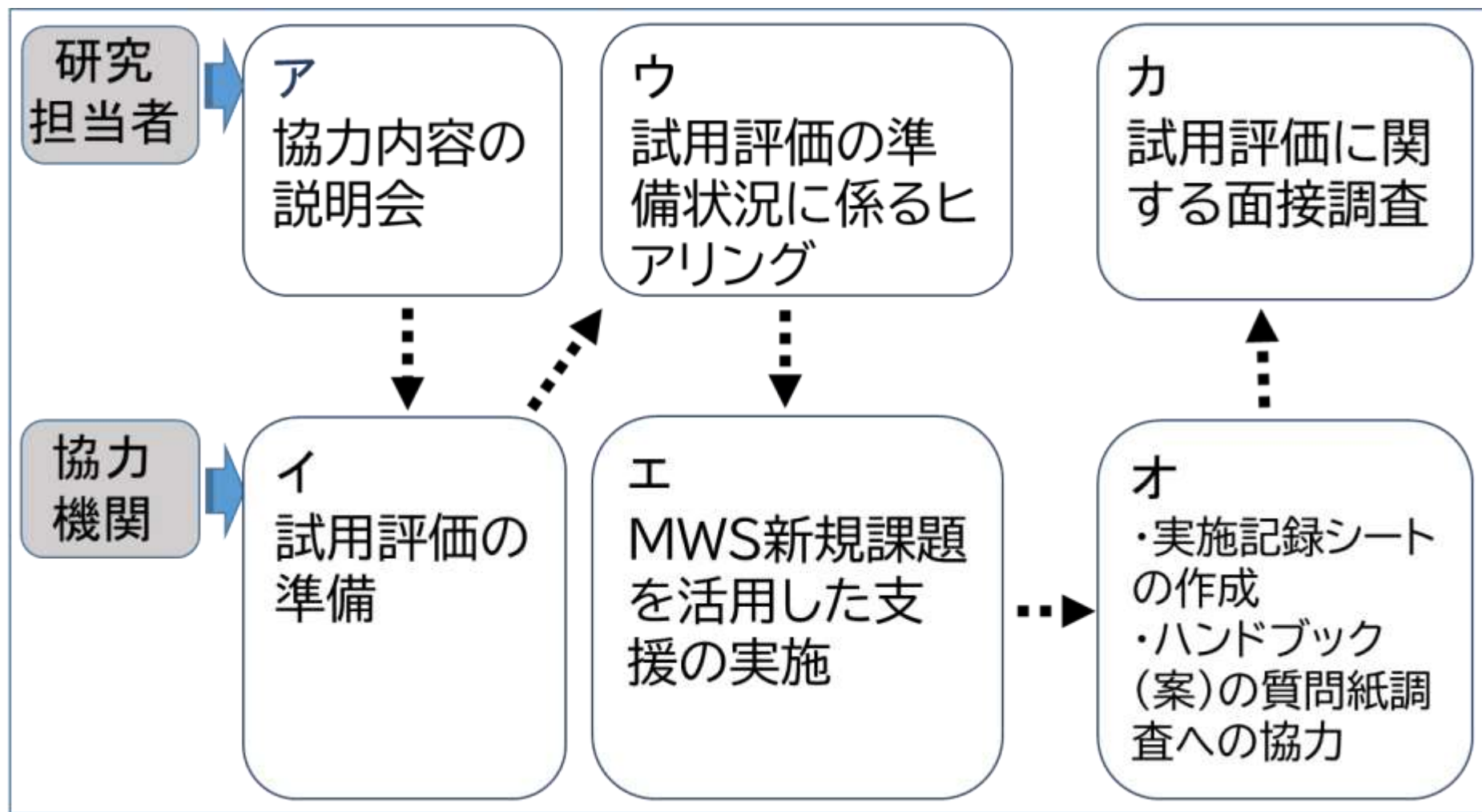
- MWS新規課題は、課題の構成や採点方法等の複雑化により支援者への負担感が増加することが懸念される。
- 「『ワークサンプル幕張版(MWS)』新規3課題による効果的なアセスメント及び補完方法の獲得に関する調査研究」(2022～2023年度)を開始し、支援者の負担軽減策として、MWS新規課題の活用方法を分かりやすく解説し、活用へのイメージを与える「活用ハンドブック」(以下「ハンドブック」という。)を作成することとした。

研究計画

	研究活動	内 容
①	活用状況質問紙調査	地域の就労支援機関を対象にMWS新規課題の活用方法等を調査。
②	ヒアリング調査	地域の就労支援機関を対象にMWS新規課題の活用事例を収集。
③	ハンドブック（案）の試作	活用状況質問紙調査等の結果をもとにハンドブック（案）を試作。
④	有識者へのヒアリング	MWSへの知識を有する専門家から、試作したハンドブック（案）への意見を聴取。意見に基づきハンドブック（案）を改良。
⑤	ハンドブック（案）の試用評価	改良を行ったハンドブック（案）を地域の就労支援機関に提供し、支援を行う中でハンドブック（案）の有効性等の評価を行うよう依頼。評価結果に基づきハンドブックを完成。

試用評価の方法

1 実施手順



試用評価の方法

2 協力機関

施設	施設の種類	担当者	MWSの 使用経験年数
A	就労移行支援事業所	①	10年程度
		②	2年程度
B	就労移行支援事業所	③	20年程度
C	障害者就業・生活支援センター	④	14年程度

3 試用評価の実施時期

2023年2月～5月の間に実施。

試用評価の方法

4 試用評価に用いたハンドブック(案)の内容

1	新規課題の 基礎知識	新規課題を活用する上での留意点を記載する。
2	活用モデル	新規課題の対象者像、新規課題を活用する場面、目的等を記載する。
3	活用事例集	活用モデルに書かれた内容を具体的に理解する資料として新規課題を用いた支援事例（活用事例）を掲載する。
4	対象者への 対応方法	新規課題を活用する上で考えられる事案への対応方法を記載する。

ハンドブック(案)の内容(抜粋)

「新規課題の特徴」から

➤ 課題の発見と対策

新規課題は、意図的に作業のやり方を必ずしも明確にしていない部分があります。そのため、対象者自身が、それまでに身につけてきた「作業を行っていくための自分なりの方略」といったものが明らかになりやすいところがあり、そのことが本人の適応上の課題になっている場合は、対象者の方と共有して対策を考えることができます。

ハンドブック(案)の内容(抜粋)

「活用モデル(文書校正 訓練版)」から

◆ 文書・文字の「見直し」(文字単位での見直し、単語単位での見直し)、定規を活用する方法など、注意や集中力を要する作業への補完方法を繰り返し学習することができる。

◆ 作業の性質上、対象者はどの位置にどのような校正箇所が設定されているか見通しを持つことができず、一定時間広範囲に注意を持続することが必要であることから、新規課題の中でも疲労の現れ方を把握しやすい、とされている。また、その分、「集中力が鍛えられて良い」という対象者もいる。

質問紙調査への回答結果(ハンドブック(案)の利用効果)

	非常に具体的なイメージを持てた	少し具体的なイメージを持てた	あまり具体的なイメージは持てなかった	全くイメージを持てなかった
①対象者	2	2	0	0
②タイミング(※)	1	2	1	0
③目的	2	2	0	0
④効果	2	2	0	0

※「アセスメント」、「復職に向けた訓練」など職業リハビリテーションの過程の中の場面、機会。

質問紙調査への回答理由①

	「非常に具体的なイメージを持てた」
対象者	<ul style="list-style-type: none">●活用モデルや活用事例が参考になった。●対象者の背景などが説明してあったので、イメージしやすかった。
タイミング	<ul style="list-style-type: none">●主にアセスメント場面で使用しているが、様々な活用シーンを知ることができた。
目的	<ul style="list-style-type: none">●活用モデルが参考になった。
効果	<ul style="list-style-type: none">●活用モデルが参考になった。●活用事例で具体的に得られた効果などが記載されていた。

質問紙調査への回答理由②

	「すこし具体的なイメージを持てた」
対象者	●開発者の考えた対象者像がわかった。
タイミング	●MWS既存課題よりは難しい課題だということにはわかっていたので、新しく何かがわかったというわけではない。
目的	●MWS既存課題よりも負荷が高くなることが再確認できた。
効果	●サブブックの内容の理解が難しい人などの場合は効果的な活用が難しい。

質問紙調査への回答理由③

	「あまり具体的なイメージは持てなかった」
タイミング	●利用者の体調によっては一律にこういう場面、タイミングで行う、とは言えないと思う。

ハンドブック(案)による支援への影響

協力機関	回 答
A	<p>●ハンドブックが作られたことで、利用者の様々な側面を見ることができるといことが分かった。今後も利用者には行ってもらおうと考えている。</p>
B	<p>●今後新規課題の活用の幅が広がると思う。社内郵便物仕分以外の課題についても活用してみようと思う。</p> <p>●活用の仕方としては、アセスメントというよりも、対象者の方の職種や可能性などについて、イメージを持ってもらったり作業体験として使うという方法もあるかもしれない。</p>
C	<p>●法人内では既存課題は以前から使っており、新規課題は2年間程度使っている。新規課題に慣れていない職員にはハンドブックにより使いやすくなるのではないかと。</p> <p>●今後新規課題を使う職員が増えることも考えられる。</p> <p>●エラーのとらえ方や、来所者への新規課題の使用を検討する場合にハンドブックの事例を見ることで考えやすくなったと思う。</p>

MWS新規課題に対する意見(ハンドブックに関連)

番号	意見の内容
①	社内郵便物仕分について、簡易版は難しいので今のところ使う場面が見いだせない。
②	簡易版は難しいので、利用者の反応を見ながら行い、人によっては訓練版を使っている。
③	評価の視点としてサブブックを理解できるかどうか、を見ることは大事だが、やり方が分かった場合はどこまでできるのか、を評価することも大切だと思っている。
④	支援の中で、サブブックの読み込みで止まっている人がいた。ハンドブックに対応方法が書いてあると良い。

簡易版について

- MWS新規課題の簡易版では、訓練版の全レベルの問題が出題される。
- 特に文書校正と社内郵便物仕分では、レベルの高い問題と低い問題がランダムに出題されるので、対象者ははじめからレベルの高い問題にも取り組むことになる。そのため、対象者によっては実施が困難な場合も考えられる。

給与計算

レベル1 → レベル4 と問題が順番に出題

文書校正

レベルが低い問題と高い問題がランダムに出題

社内郵便物仕分

⇒はじめからレベルの高い問題も出題

試用評価のまとめ

- MWS新規課題による支援を行う上でハンドブック（案）の内容は、協力機関の担当者にとって概ね参考になる内容であったと考えられる。
- 支援施設の職員（支援者）がハンドブックを読むことによりMWS新規課題の活用が増える、活用する支援者が増える、今まで使わなかった課題を使う、などの効果が期待される。
- 指摘にあった、簡易版に関する説明、サブブックの理解が進まず作業に取り掛かれないケースへの対応などについてハンドブック（案）に追記する。

ありがとうございました。